

令和六年 春 季 号

2024. 5. 16

発行：レイカディア大学 甲賀・湖南支部

編集：同窓会 文化広報部

*** 新任の挨拶 ***

<新支部長 渡辺 新治 39期>

令和6年度定期総会に於いて支部長に選任されましたが、副支部長（事務局担当）が選任され無かった為、兼任する事になりました。二役をこなせる自信はございませんが、精一杯務めさせていただきますので理事を始め会員各位のご支援をお願い致します。当会の目的は「会員相互の親睦とボランティア活動に積極的に参加する」ですが、参加して良かったと思って頂ける同窓会活動を推進して参りますので会員の皆様の積極的な参画をお願い致します。



<新副支部長(会計担当) 中瀬 恵子 40期>

会計を担当させていただく事となりました。よろしくお願いいたします。厳しい予算ではありますが理事の皆さんと知恵を出し合い、協力しながら「行事に参加して楽しかった」「同窓会に入っていて良かった」と言っている会になれば嬉しく思います。近くの会員同士が声を掛け合い、仲間との繋がりを大切に、楽しい支部となるよう努めてまいりますので、みなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。



*** 退任の挨拶 ***

<前支部長 村上 多津美 37期>

レイ大で学んだ2年間は、大変楽しかった。私の知らなかった近江の自然や歴史文化をこれでもかと教えて頂いた。共に学んだ学友との絆も嬉しかった。その恩返しもあって支部の理事となり、支部長も務めました。支部長として他支部の方との親睦を深め、彼らの人柄を知った事は、私の財産となりました。ただ次期副支部長を選任出来ないまま、後を渡辺新支部長にお任せする事になり、申し訳なく感じております。



<前副支部長(会計担当) 市井 眞一 37期>

この3月31日をもちまして任期満了により副支部長（会計）を退任させて頂きました。会員の皆様のご協力のおかげで非才な私でございましたが2年間の任期を全うさせて頂きました事、感謝申し上げます。

当支部の事業運営について近年益々、役員の担い手が中々決まらず非常に厳しい環境であります。新支部長を先頭に会員一丸となり会員の興味を引く事業が推進出来ますよう祈念し退任の言葉とさせていただきます。



*** 令和6年度 米寿慶祝者の皆さん ***

<飯田 誠太郎 25期>

戦時中の厳しい生活難を経験し、今日の豊かな時代に生かされている事に喜びを感じています。私自身は多趣味で陶芸で学んだお陰で独自の作品を創ることにワクワクしています。尚、陶芸ボランティアにも参加し多くの方々と知り合いになりました。又、甲南ふれあいの館には昔の農業や暮らしの用具が多く展示され、その用具の使い方や藁を使っての、しめ縄、草履づくり等のボランティアにも参加しています。他には季節で代わる風景を写生して、市美術展を始め各種の作品展に出展し楽しんでます。このたび米寿を迎えて、気威力、体力が衰えて来ていますが、まだまだ頑張りたいです。



“生きがいを求めて”

<木田 勝彦 22期>

米寿のお祝いを頂き大変有難う御座います。85歳の時点で断捨離もどきを行い、運転免許証の返納、パソコンのNet 契約解除を行いました。

「車のない生活」が如何に不便か？日常の買い物は元より、高齢者参画の諸画行事にも制限を受ける。ゴルフの遊びは殆ど不可、ひしひしと不便を感じておりますが、年金を考えると仕方ありません



“限られた中で如何に楽しく”を検討中！

<富永 藤吉 20期>

米寿のお祝いを頂き、有難うございます。60歳の定年後スボレク学科の皆と楽しく過ごしました。

卒業以来現在も毎週水曜日にサークルでレクダンスを24期の中嶋廣光先生に教わっています。



“健康第一をモットーに白寿を目指して”

*** いずみ ***

◇令和6年度 甲賀・湖南 支部 定期総会の開催

日時：令和6年4月26日(金) 13時30分～15時45分

場所：甲賀市まちづくり活動センター(まるーむ)

当日は38名の参加の元、次第に基づいて進行されました。事業報告、決算報告、役員人事等令和5年度の結果と令和6年度の計画について夫々承認されました。

又、甲賀忍者の歴史と題して福島嵩仁氏に講演をして頂き盛況の内に終了致しました。ここに参加者の集合写真を掲載させていただきます。



◇文化広報部から

令和6年の1月から新フォーマットで支部だよりを発行致しました。

又、年4回の発行で支部活動の情報をよりタイムリーに会員の皆様にお届けすべく取組んでおります。会員皆様の日頃の活躍を当支部だよりで紹介できます様、より多くの寄稿をお願い致します。

(森田・高山・峙)

*** 地域探訪 ***

近くの釣鐘を調べてみませんか？

33期 園芸A 高田 信男

このレイ大支部だより36号で「江戸期の梵鐘を探し求めて！」と題して、甲賀市内を中心に昔の釣鐘を調査した概要を報告させて頂きましたが、今回は、皆さんの身近にある釣鐘にはどんな情報が判るのか？どんな視点で接するのか？などについて紹介します。

まず、釣鐘（梵鐘・大鐘）は高さ150～200cm、直径60～90cm 行事鐘（半鐘・喚鐘）と大きく区分されます。

どの鐘にも、①鑄造年月日 ②鑄物師（製作者）が刻まれています。それ以外には、この鐘をどう言う願いで造ったのか？寄進者の名前や経緯などが書かれています。また、お経の1節が刻まれているものや、その鐘の履歴とされる、この場所には江戸期の何時何時に誰が鑄造した鐘があったが戦争で供出し今の鐘は二代目であると刻まれたものもあります。

あの戦争で、国家総動員の掛け声の下に、日本中のお寺の梵鐘は金属回収令に従って殆どが供出されてしまいました。ただ、特例として、歴史的価値や地域の非常招集警鐘だと回収免除願で供出を免れた例もあり、甲賀市内にもありました。

そのひとつが甲賀市土山町前野にある黄檗宗の寺院、地安寺の釣鐘です。鐘は楼門の中央、2階部分にあり、後水尾法皇ゆかりの寺で、その由緒を刻んだ菊の御紋章の付いた鐘でしたので、当時の関係者が訴え供出を免れ、見事に今日まで300年を超える歴史ある梵鐘として守り伝えておられる鐘がありました。



もうひとつ、甲賀町油日にある甲賀の総社 油日神社の梵鐘も大変古い物でした。記録によると、戦国時代、元龜3年（1572年）に当時の甲賀士の寄進により造られたのですが、寄進から10年も経過しないうちに、信長が近江攻めの時に持ち帰り熱田神宮近くの寺に寄進した記録が明らかになったのですが、結局、現物の存在は不明です。

信長に持ち去られ、油日神社に梵鐘がないことを嘆いた領主山岡主計頭以下諸氏の寄進により元和6年（1620年）11月5日に寄進されたと、現在の梵鐘に刻まれており、この鐘も歴史的価値を訴え、供出を免れた貴重な鐘でした。今から403年前の梵鐘で、市内は一番古い梵鐘であることも判明しました。

また、水口町にある 徳川家康 ゆかりの寺、大徳寺の梵鐘は慶長18年（1613年）徳川家康の寄進したものと伝わりますが、その後、再鑄したようで江戸期のもではあるが詳細調査が必要です。

このように、身近にある釣鐘を調べてみると、供出を免れた釣鐘、昔の釣鐘は戦争で供出され今は二代目の釣鐘が吊されているところ、更には、一旦、戦争で供出されたものの戦後になって、戻ってきた釣鐘に遭遇するかも知れません。

また、釣鐘は供出されてしまったが、行事鐘と呼ばれる半鐘や喚鐘はお寺の行事に必要な物であるから供出対象を免れた物が多く、その鑄造年月日を調べるとかなり古い物が残っているようです。

お近くの釣鐘、お出掛けの時に釣鐘を調べてみませんか？ 携帯電話で写してきて拡大して読み取るのも楽しいですよ！

..... [次号に続く](#)

読者のページ

◇ 今月の川柳 ◇

- ・ 日帰りで行ってみたいな 天国へ。
- ・ 延命は 不要と書いて 医者通い。
- ・ 目覚ましの ベルは未だかと 起きて待つ。
- ・ 三時間 待って病名 加齢です。
- ・ 起きたけど 寝るまで特に 用もなし。

※作者不明

※皆さんの風刺やクスッと笑える投稿お待ちしております。

◇ 頭の体操 ◇ 「支部だより36号」のつづき

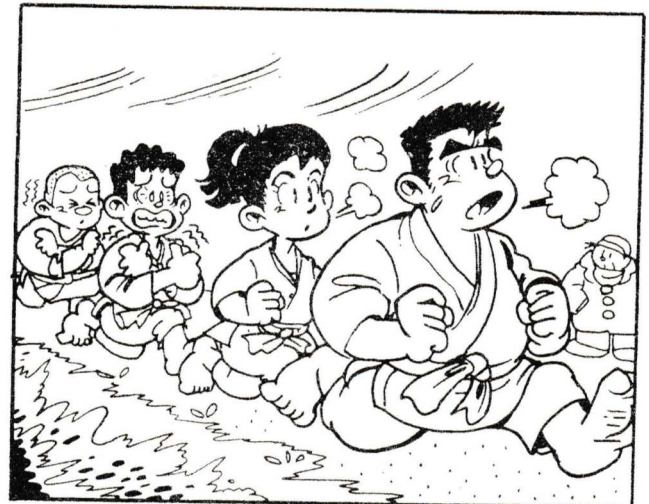
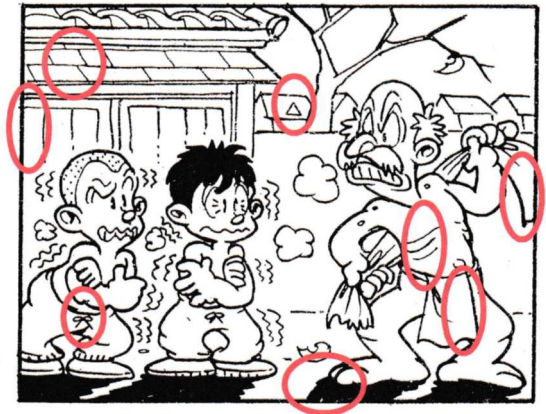
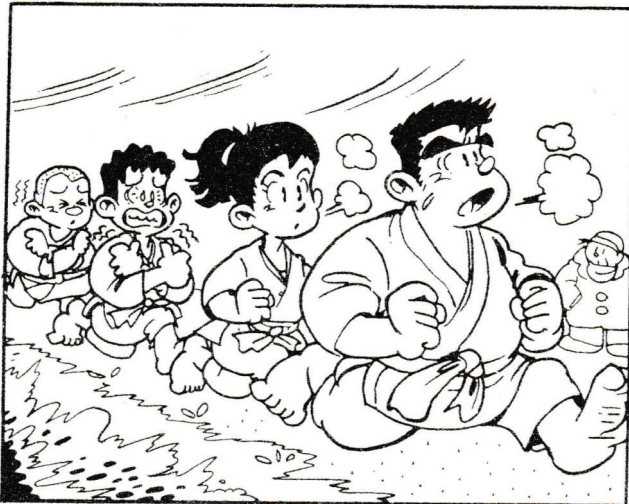
7. 恋をする。

人間は、恋（淡い恋）をすることが一番脳を活性化させるといわれている。
おしゃれに気を使ったり、楽しい話題づくりを考えたり、脳を最大限活用するから。
だから恋をしよう。

※「同窓会：ボケないための提案七ヶ条」より最終条項です。
※以降追加の条項を皆さんの投稿にてお待ちしております。

◇ 考えよう ? ◇ 違いは いくつ わかるかな

・ 前回 (36号) の答え



※印刷の 汚れ / かすれ などは関係ありません。
※回答は「支部だより38号」にてお楽しみに♥